

剣道用具確認証

大会長殿

本大会の出場にあたり、使用する用具につて、「剣道試合・審判規則」および「大会要項」に即し、下記の項目の確認いたしました。

日付： 年 月 日
高校

選手氏名（自筆）

記

1) 竹刀関連：検査本数：合計 本（大会検査所提出本数）

- ① ☐ 竹刀の長さ（全長 117 cm 以内）が適正
- ② ☐ 竹刀の重さ（男子 480 g、女子 420 g 以上）が適正
- ③ ☐ 竹刀の先革先端部の太さ（対辺：男子 26 mm、女子 25 mm 以上）が適正
- ④ ☐ 先から 8 cm 部分のちくとうの太さ（対角：男子 21 mm、女子 20 mm 以上）が適正
- ⑤ ☐ 先革の長さ（5 cm 以上）が適正
- ⑥ ☐ 中結の位置（全長の約 1/4）が適正（先端から約 30 cm）
- ⑦ ☐ 各ピース（竹）の間の隙間がない
- ⑧ ☐ 破損・ささくれはない
- ⑨ ☐ 不当な付属品を使用していない
- ⑩ ☐ 安全性を著しく損なう加工・形状変更をしていない
- ⑪ ☐ 柄皮に学校名・氏名を男子は黒、女子は赤で記名している

2) 小手関連

- ① ☐ こぶしと前腕（肘関節から手首関節の尺骨側（最長部））の 1/2 以上を保護している
- ② ☐ 小手ぶとん部のえぐり（くり）の深さは小手ぶとん部最長部と最短部の差が 2.5 cm 以内である
- ③ ☐ 小手頭部・小手ぶとん部の十分な衝撃緩衝能力がある
- ④ ☐ 小手ひもが結ばれていて、長く垂れ下がっていない
- ⑤ ☐ 小手の内革が破れて危険な状態ではない

3) 面関連

- ① ☐ 肩関節の保護ができる布団の長さが確保されている
- ② ☐ 面ぶとんの十分な衝撃緩衝能力がある
- ③ ☐ 面ひもの結ぶ位置が物見の後ろに来ている
- ④ ☐ 面ひもを結んだ長さが 40 cm 以内になっている

4) 剣道着関連

- ① ☐ 袖の長さについて、肘関節の保護ができる（構えたときに肘関節が隠れること）

以上